

令和3年10月7日

各位

会社名 株式会社マネーパートナーズグループ
 代表者名 代表取締役社長 福島 秀治
 (コード番号：8732 東証第一部)
 問合せ先 経営管理部長 宇留野 真澄
 (TEL. 03-4540-3804)

2021年9月次 月次概況(速報)のお知らせ

2021年9月次の当社グループの月次概況(連結ベース)を下記のとおりお知らせいたします。なお、営業収益及び外国為替取引預り証拠金は速報値であるため、決算発表時の数値と異なる場合があります。

記

年月	2021年3月期											
	2020年									2021年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	407	303	318	282	309	310	273	355	495	413	452	591
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	82,072	92,851	106,893	75,910	85,460	82,287	60,129	75,348	71,190	66,894	71,453	97,402
外国為替取引口座数 (単位：口座)	340,605	340,735	340,825	340,830	340,840	340,768	341,218	341,138	341,086	341,521	341,690	342,122
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	62,460	62,004	61,807	62,331	62,751	65,155	62,104	61,812	61,175	60,590	59,575	59,081
一般顧客	60,227	59,654	59,267	60,022	60,364	63,044	60,121	59,849	59,365	58,733	57,731	57,346
金融法人(BtoB)	2,232	2,350	2,539	2,309	2,386	2,111	1,982	1,963	1,809	1,856	1,843	1,734
マネパカード口座数 (単位：口座)	162,828	163,034	163,058	163,086	163,138	163,159	163,034	162,996	162,802	162,492	162,309	161,921

年月	2022年3月期											
	2021年									2022年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業収益 (単位：百万円)	445	403	430	395	387	470						
外国為替取引高 (単位：百万通貨単位)	72,253	82,478	73,411	92,739	76,532	78,411						
外国為替取引口座数 (単位：口座)	342,801	343,397	343,817	344,134	344,314	344,522						
外国為替取引預り証拠金 (単位：百万円)	58,635	56,276	56,581	56,671	56,468	56,284						
一般顧客	57,068	54,786	54,965	55,027	55,065	54,825						
金融法人(BtoB)	1,567	1,489	1,616	1,644	1,403	1,459						
マネパカード口座数 (単位：口座)	161,712	161,526	161,301	161,091	160,964	160,800						

- (注) 1. 外国為替取引高は、顧客との相対取引による通貨毎の取引高を原通貨単位のまま合計したものであり、円換算は行っておりません。
2. 外国為替取引口座数、マネパカード口座数及び外国為替取引預り証拠金は、それぞれ月末時点の口座数及び残高であります。
3. 2011年8月より差金決済取引(CFD)の取扱いを開始しており、CFDにおける預り証拠金、取引高(原取引単位を米ドルに換算)及びこれに伴うトレーディング収益はそれぞれ「外国為替取引預り証拠金」、「外国為替取引高」及び「営業収益」に含めて表示しております。
4. 外国為替取引預り証拠金は、一般顧客からの取引によるものとBtoB取引先である金融法人からの取引によるものを区分して表示しております。
5. 2020年7月から2021年3月までの「営業収益」には連結子会社のコインエージ株式会社の数値が含まれております。なお、同社は2021年3月31日をもって暗号資産交換業を廃業し解散しております。

< 9月次の概況 >

9月の外国為替相場は、米ドル/円については、1ドル=110円台前半で取引が始まり、3日発表の米8月米国非農業部門雇用者数が事前予想を大きく下回る結果となったことから109円台後半まで下落しました。その後は米長期金利の動向を睨みつつ109円台後半から110円台前半の狭いレンジで推移し、14日発表の米8月CPIが市場予想を下回る結果を受けて15日に109円台前半の安値を付けましたが、同日発表のNY連銀製造業景気指数の結果が好感され反発、週末17日には米金利上昇もあり110円台を回復しました。週明け20日、中国不動産大手企業を巡る信用不安を背景にリスク回避の動きが強まり、22日には109円台前半まで下落しました。しかし、22日のFOMCの声明で早期のテーパリング開始が示され109円台後半まで上昇し、その後は上げ足を早め1年7カ月ぶりの水準となる112円台前半の高値で月末を迎えました。一方、米ドル/円以外の主要な取扱い通貨である欧州・オセアニア通貨については、中旬から中旬にかけて概ね円高傾向にて推移し、その後は円安傾向での推移となりました。外国為替相場の変動率は、FOMCの声明を受けた相場の急上昇によって米ドル/円の月間の値幅（高値と安値の差）が3円程度と拡大するも、1日の平均値幅は0.545円（前月は0.508円）に留まるなど、全体としては低調な水準となりました。

このような状況の中、パートナーズFXnanoの米ドル/円において、1回当たりの取引数量5万通貨まで原則24時間スプレッドゼロ（売買同値）、18時00分～21時00分の時間帯に限り1回当たりの取引数量20万通貨までスプレッドゼロとするキャンペーンを継続しております。また、9月下旬から「約定力100%」のパートナーズFXの米ドル/円において、試験的に18時00分～21時00分の時間帯に限りスプレッドを0.3銭から0.2銭に縮小しております。外国為替取引高は、低調な変動率の影響下にあって前月比2%増加の784億通貨単位となりました。営業収益は、取引高の増加や収益性の向上、スワップ収益の堅調な推移に加え、システム関連売上高が大きく増加し、前月比21%増加の470百万円となりました。また、外国為替取引預り証拠金は一般顧客分が減少、金融法人分が増加となり、全体では183百万円減少の56,284百万円となりました。

以上